

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成13年度 第4号

2001年12月3日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成13年11月26日～11月29日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深100～600m海域（天候不良のため胆振側は2線のみ）

- ・ 反応は胆振海域で強く、湾口部～渡島側では弱い
- ・ 分布水深は胆振側では250～400m
湾口部～渡島側では300～400m
- ・ 調査海域のスケトウダラの平均反応量は、胆振側で10月調査時の約5倍に増加したが、湾口部～渡島側では10月と同程度



- ・ 胆振側では漁獲が増加
- ・ 噴火湾口部～渡島海域では魚の来遊が遅れており、昨年同様12月中旬以降となる見通し

1. 胆振海域では水深250～350m前後にスケトウダラの強い反応が観察されました（図1、2）
苫小牧沖のJ線では魚群が水深400mより沖側の海域にも分布していました。反応は非常に強く、調査したI、J線における平均反応量は、前回（10月末）調査の約5倍に増加しました（図3）。
2. 噴火湾口部から渡島海域にかけては、魚群反応が薄く（図1）、平均反応量（C～G線の範囲）は前回（10月末）の調査とほぼ同じ低いレベルにありました（図3）。
魚群の分布水深は、湾口部（F、G線）では水深250～350m前後（中心は300m）、南部のD、E線では280～400m（中心は300～400m）と、やや深くなっていました（図1、2）。
3. 調査海域全体（C～J線の範囲）における平均反応量は、10月の約2倍に増加しましたが、前年（平成12年）12月の約7割でした。
4. 胆振海域では非常に強い反応が観察されたことから、漁獲は増加すると思われます。
一方、湾口部～渡島海域は10月調査時同様魚群が薄く、来遊が遅れていると考えられることから、漁獲の増加は昨年同様12月中旬以降と思われます。

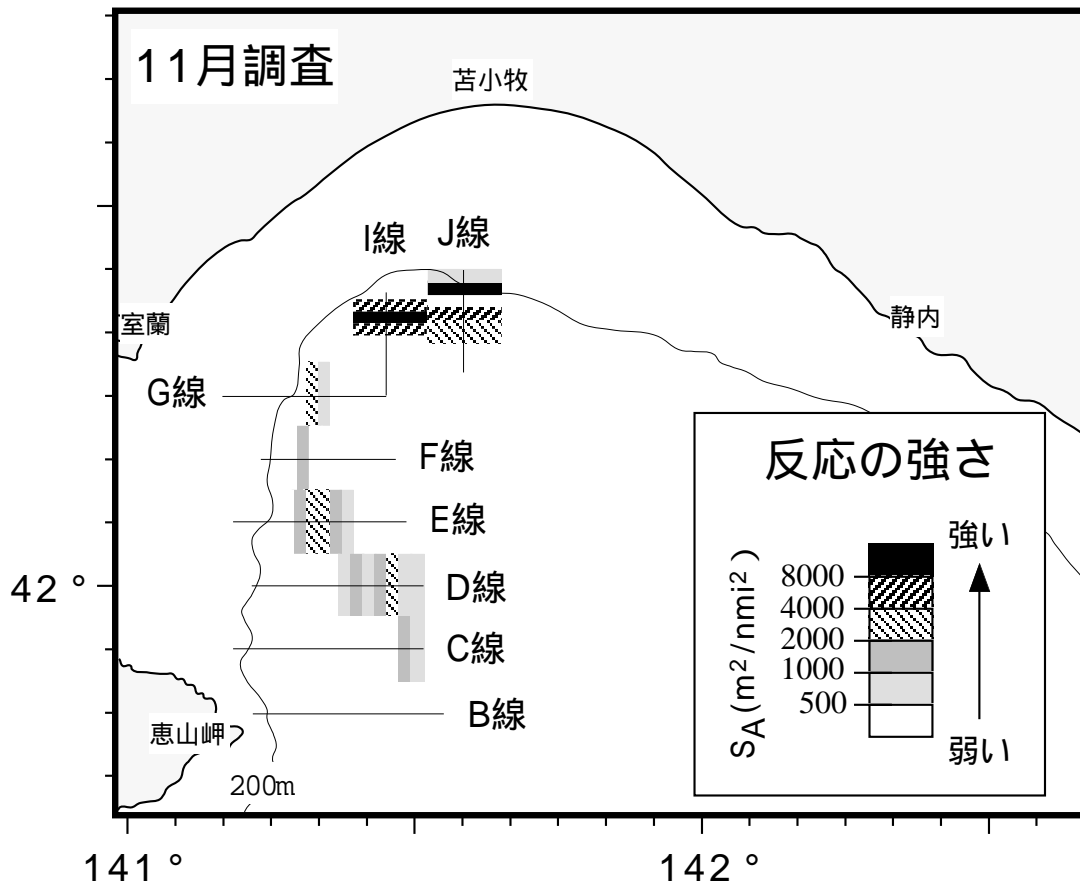


図1 魚群水平分布

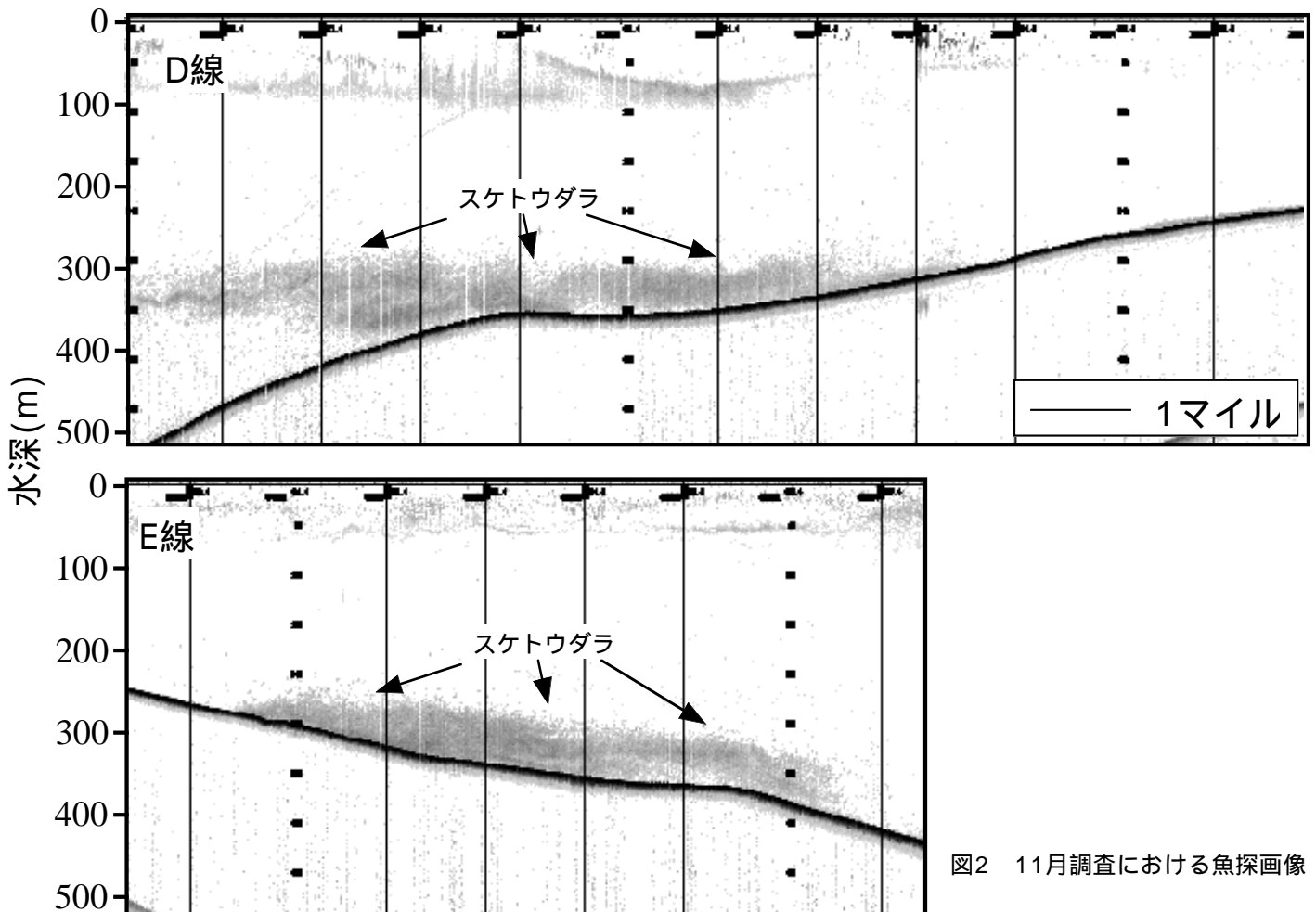


図2 11月調査における魚探画像

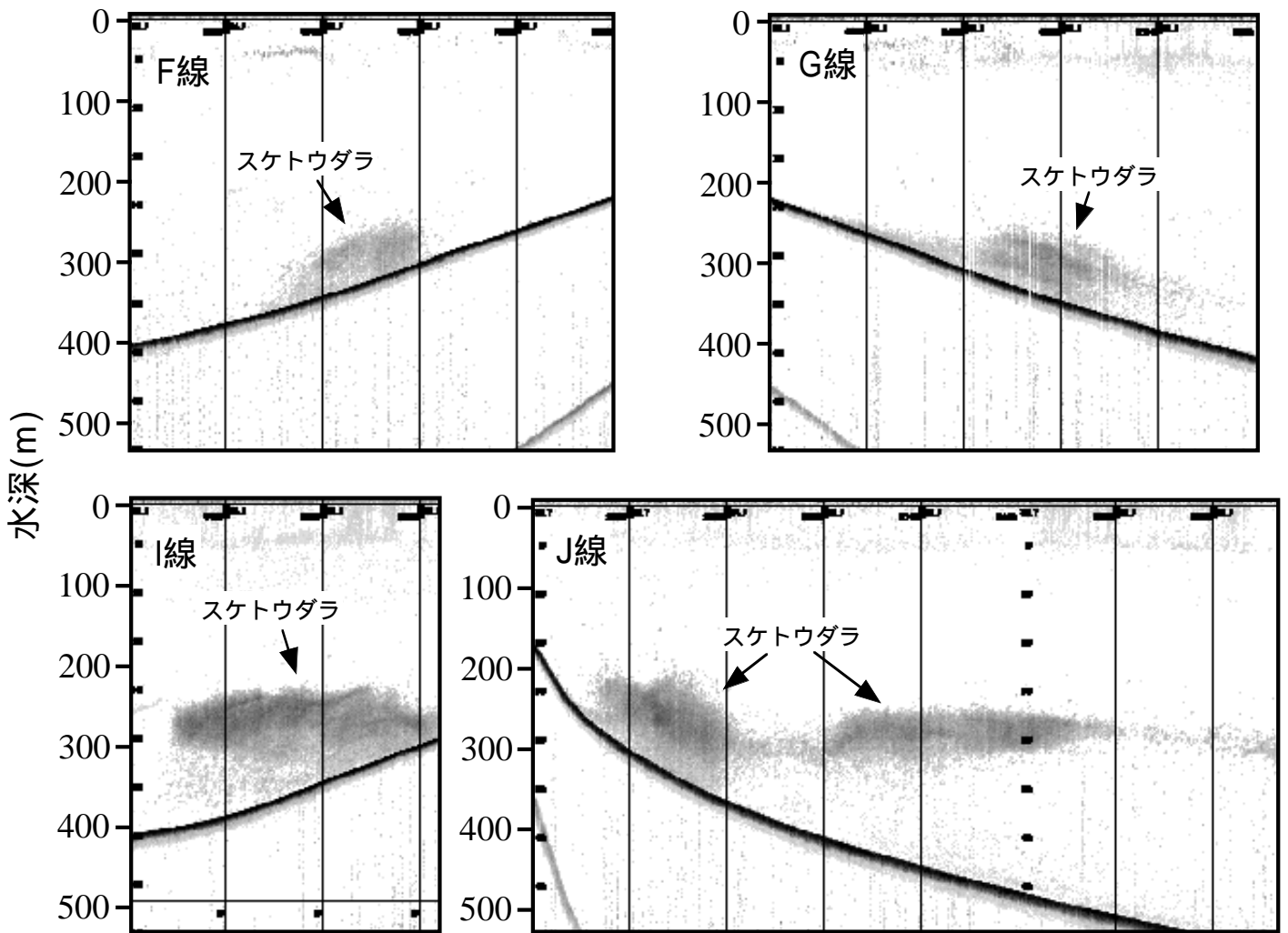


図2 11月調査における魚探画像

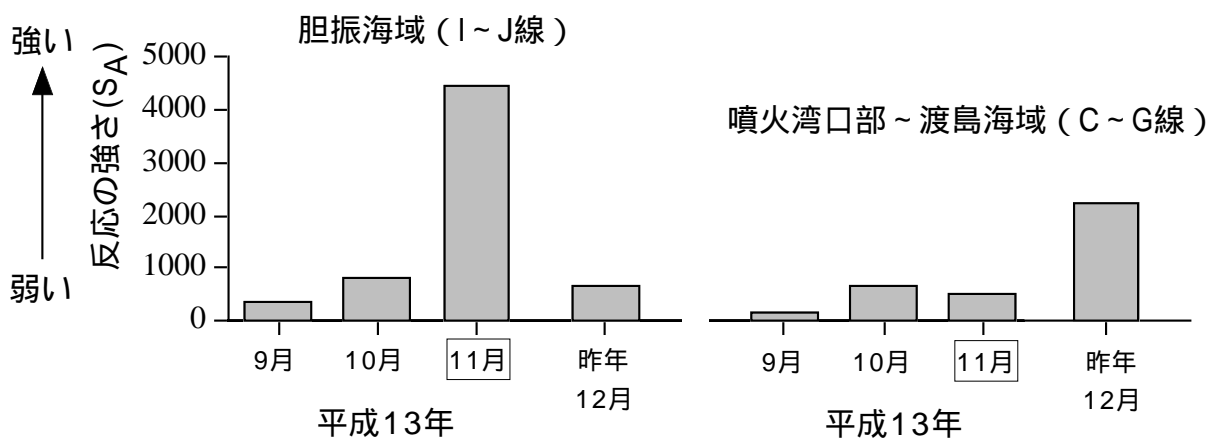


図3 . スケトウダラ平均反応量